



ポーセリンアート教室で 交流の輪を広げる 玉村町商工会女性部(群馬県)

玉村町は群馬県南部に位置し、坂東太郎の異名をもつ利根川と、埼玉県との県境をなす利根川水系の一級河川の烏川が流れる自然豊かな地域です。江戸時代には日光例幣使街道の宿場町として栄え、国指定重要文化財の玉村八幡宮をはじめ、当時をしのぶ建物を

が保存されています。現在は関東道の高崎玉村スマートICや幹線道路の開通により、都心や県内各地へのアクセスが良好になりました。

玉村町商工会女性部は昨年創立40周年を迎え、「ポーセリンアートクラブ」を設立しました。ポーセリンアート教室では、白磁に好みの転写紙(磁器用の顔料で絵柄がプリントされたシール)を選び、水貼りし、焼き付けて、世界に一つだけのオリジナル磁器をつくります。

昨年は月2回の定期教室に加えて、町のイベントに参加したり、県内各地の商工会女性部に向向いて、出張教室も行いました。出張教室では、普段出会えない他地域の女性部員の方々に大変喜んでいただき、和やかな交流ができた



道の駅「玉村宿」にて出張教室を開催

した。

この事業を通じて、部員一人ひとりが楽しむだけでなく、どうしたら相手にわかりやすく伝えられるかを考え、唯一

無二の作品をつくり出すことにより、自己と向き合う時間をもつことができ、本業にもよい影響を与えているようです。

はちみつ通信

商工会女性部はまちに
元気と安心をお届けしています。



作成したオリジナル磁器(オリジナルマグカップ)



女性部のつるし雛づくりが 商店街や地域に賑わいを呼ぶ さつま町商工会女性部(鹿児島県)

さつま町商工会女性部は、平成の大合併によって3つの町の商工会が合併して誕生し、大所帯となりました。そこで問題となったのが、部員同士が顔も知らないという旧3町間の隔たりでした。

それを払拭するためにみんなで楽しくできる活動として、つるし雛づくりを始めました。つるし雛のネーミングは、全国有数の竹林面積を誇る「竹のまち」に因んで「さつま福かざり」に。部員が月に2回集まり制作する



部員が1年かけてつくった「ささ福かざり」

ほか、普段は店番をしながらの制作活動。そのようにして、多くの作品ができてくると、今度は「ほかの人にも見てもらいたい」「商店街の活性化にも生かせないか」という意見が出たことで、2月の初市から10日間、空き店舗を活用して展示することになり、今年で8回目を数えました。年々展示数も増え、「ささ福かざり」を目当てにした来町者が

随分増えました。普段はほとんど人が歩いていない商店街を多くの人歩き、商店街に入って買い物したり、飲食店で食事をしたり、また部員だけでなく、「つくりたい」「習いたい」という地域の人が増え、今では老人会の活動、町民講座にも広がりました。

女性部の活動が商店街や地域を巻き込み、さつま町の一大行事に発展しつつあります。今後も、楽しみながら作品づくりをしていきます。

来年の2月7日からの10日間、どうぞ、さつま町へおいでください。

はちみつ通信ぶらす

女性部の皆様へ

全女性連公式ホームページに動画や写真を掲載しませんか？

全国に向けて発信したい情報などございましたら全女性連事務局まで。✉ zen-jo@shokokai.or.jp



全女性連公式HPはこちら▶

URL

<http://women.shokokai.or.jp>



期間中、津軽三味線の演奏会を開き、町内外から多くの人が集まった